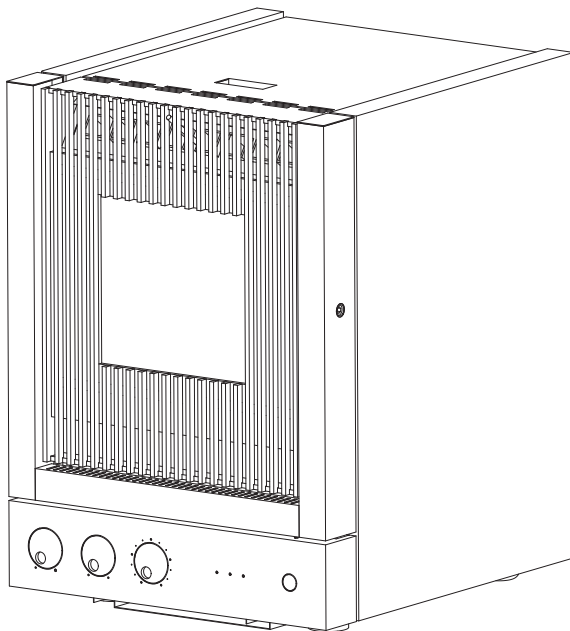
取扱説明書

このたびは、本品をお買い上げ頂きまことにありがとうございます。ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。お読みになった後は、大切に保管していただき、取り扱いのわからないときや不具合が生じたときにお役立てください。

保証書別添付

安全上のご注意

安全に使用していただくための重要な項目ですので必ずお読みください。

このペレットストーブは、暖房機用です。室内暖房以外のご使用は絶対しないでください。室内暖房以外でご使用になった場合の故障・修理・事故その他の不具合については、責任を負いかねますのでご了承ください。

ここに表示した事項は、安全に関する重大な内容の記載です。表示の意味は次のようになっています。

 警告　誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示します。

 注意　誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示します。

 してはいけない「禁止」事項です。

 しなければならない「実施」事項です。

 「注意」事項です。

 絶対に分解・修理・改造はしないでください。

 絶対に触れないでください。

 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

警　告

高温部接触禁止

ストーブ運転中、及び運転停止後しばらくは、高温部、給排気筒等に触れないでください。やけどの恐れがあります。
特に小さいお子様の見える家庭では、ストーブに触らせないよう、ガードなどを使用し、十分な配慮をしてください。

禁止

可燃物接触禁止

カーテンや洗濯物など燃えやすい物の近くでは使用しないでください。また、スプレー・ガソリンなど引火の恐れがあるものは近づけないでください。発火、火災の恐れがあります。

禁止

木質ペレット燃料以外混入禁止

燃料タンクには木質ペレット燃料以外の物を入れないでください。故障の原因になります。

禁止

燃焼室異物混入禁止

燃焼室には、紙、布などを入れないでくださいまた、ライター、マッチでの着火、着火材は使用しないでください。

禁止

ストーブの上に物を置かない

ストーブの上に物を置かないでください。
加熱し危険です。

禁止

ストーブの上でやかんや鍋を使用しない

ストーブの上でやかんや鍋を使用しないでください。水や熱湯がこぼれることにより、やけどやけが、感電、ショート、故障の原因になります。

禁止

分解修理禁止

故障、破損したら使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

分解禁止

給排気筒のはずれ危険

給排気筒が正しく接続しているか点検してください。外れていると運転中に燃焼ガスが室内に漏れて危険です。

警　告

異常時使用禁止

臭い、煙、煤の発生、異音など、異常を感じたときは運転を停止してください。
火災や異常燃焼の恐れがあります。

禁止

ストーブ運転中は扉、灰受皿を開けないでください。

火災、やけど、異常燃焼の恐れがあります。

禁止

お手入れはストーブが完全に冷えてから

ストーブ運転停止後しばらくは、本体、給排気筒が高温になっています。完全に冷えてから行ってください。
やけどの恐れがあります。

禁止

異常ランプ表示での使用禁止

コントロールパネルの火力ダイヤルを燃料過剰注意ランプが点灯している状態で、使用しないでください。

禁止

給排気筒閉そく危険

積雪や異物などで、給排気筒の先端がふさがれているときは取り除いてください。
運転中に燃焼排ガスが、室内に漏れて危険です。

実施

据付上の注意

お客様ご自身による設置は危険です。据付工事や移転工事は、必ずお買い求めの販売店に、ご依頼ください。
ストーブ及び給排気筒の備え付けには、各地の火災予防条例に従って備え付けてください。

実施

注　意

電源プラグのお手入れを

電源プラグを抜き、ほこりや金属が付着している場合は、取り除いてください。
ほこりが溜まると湿気などで絶縁不良になり、感電、ショートの原因になります。

ほこりやごみを取り除く

使用しないときは電源プラグを抜く

使用しないときや、お手入れの際は電源プラグを抜いてください。また、電源プラグは濡れた手で抜き差ししないでください。
火災や感電、予想しない事故の原因になります。

プラグを抜く

電源コードを傷めない

電源コードに物を載せたり、高温部に近づけたり、電源コードを傷めるような、ことはしないでください。また、プラグを抜くときはコードをもって引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。

実施

電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントの根元までしっかりと差し込んでください。又、傷んだプラグや緩んだコンセントは使用しないでください。
火災や感電の原因になります。

実施

電源の接続

電源は適正配線された単相100V以外では使用しないでください。また、電源コードは延長コードを使用したり、たこ足配線をしないでください。発熱、発火の原因になります。

禁止

木質ペレット燃料は食べないでください

乳幼児が誤って口に入れないよう注意してください。

禁止

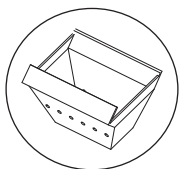
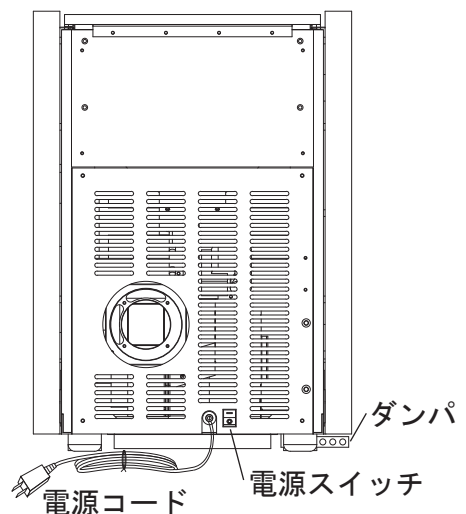
ストーブ表面のお手入れには、研磨剤など、ご使用なさらないでください

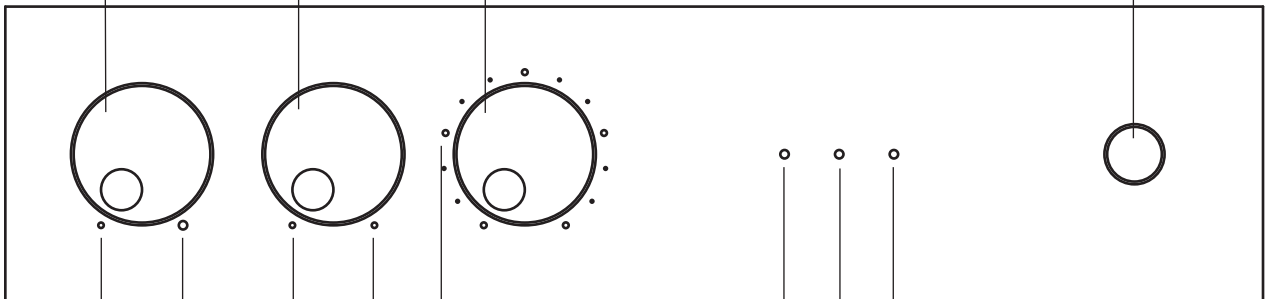
塗装のはがれ、さびの原因になります。

禁止

目　次

各部の名称と機能

燃料タンク
木質ペレット燃料貯蔵庫（10Kg）
パイプクリーナー
燃焼室内の上部に溜まった灰を落とします
温風吹出し口（上部）
燃焼室内で暖めた空気を送り出します
バッフルプレート
燃焼効率を高めるための板です
燃焼室
燃料を効率的に熱にします
セラミックボード
燃焼室内の後壁
扉
扉レバー差込口
レバーを差込口にセットします。
扉レバー
扉レバー差込口にセットし、前後に回し扉を開け閉めします。
燃焼ポット
落ちてきた燃料を効率的に燃焼させます
灰受皿（小）
燃焼後の灰が溜まります。
灰受皿（大）
燃焼後の灰が溜まります。
温風吹出し口（下部）
燃焼室で暖めた空気を送り出します
燃料供給強制スイッチ
運転停止時、燃料を燃料タンクより、燃焼ポットへ強制的に送り出します。
ストーブ背面
ダンパ
電源スイッチ
電源コード

各部の名称と機能

コントロールパネル

使い方

【初めて使用するとき】

１．電源プラグを電源にしっかりと差し込み、背部の電源スイッチを入れます。
２．燃料を燃料タンクに入れます。
３．燃料供給強制スイッチをペンなどの先の細い物で押し続け、燃料を燃料タンクより燃焼ポットへ強制的に送り出します。
※燃料供給強制スイッチは、運転スイッチはオフ、電源スイッチがオンの状態で作動します。
４．燃料が燃焼ポットへ落ち始めたら準備完了です。

【燃料の確認と補給】

ご使用の燃料については、燃焼器に向き不向きがあります。ホワイトペレット（弊社推奨品）をお勧めします。
１．ご使用前には必ず燃料タンクを点検し、燃料の補給を行ってください。
２．燃料タンクは10kg入り、最大火力で約８時間燃焼します。使用状況に合わせて燃料の補給を行ってください。
※保管している間に燃料が湿気を持つことがあります。湿気を持った燃料を使用すると着火しにくくなり、不完全燃焼の原因になります。

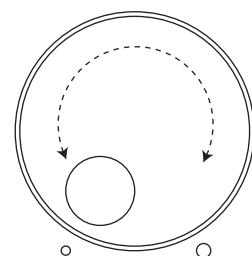
【扉】

１．扉レバーを扉レバー差込口にセットして、前後に回し扉を開け閉めします。
※扉は隙間があると、不完全燃焼やトラブルの原因となりますので、しっかり閉めてください。
※扉のガラス部は耐熱性のガラスです。熱を持ったガラスに水がかかったり、ぬれた布等を使用すると破損します。
※扉のガラス部破損の際は、お買い求めの販売店もしくは弊社までご連絡ください。弊社以外のガラスは使用しないでください。

【運転の開始】

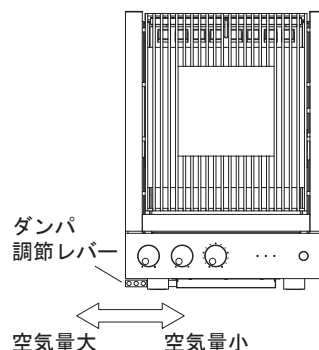
１．運転スイッチを押します。運転ランプ（緑）が点灯します。
２．約１０分間は自動運転を行います。
※この間は火力ダイヤル・温風ダイヤルを回しても変化しません。

【火力の調整】

１．約１０分後、温風吹き出し口より風が出始めたら、火力ダイヤルにて火力が調整可能です。徐々に温風に変わってゆきます。
２．燃料の供給量が最大値を超えると燃料過剰注意ランプが点灯します。ランプの点灯は不完全燃焼の目安となります。
３．正常な燃焼であれば、燃料過剰注意ランプが点灯の状態で使用されても問題はありません。
炎に黒煙が混ざるなど不完全燃焼を起こしている場合は、火力ダイヤルをランプが消えるところまで戻すか、ダンパにて空気の量を調節してください。

使い方

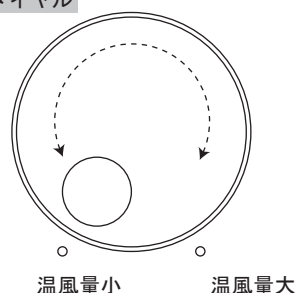
【ダンパ】

燃料の供給量が適切なのに、炎に黒煙が混じったり、通常よりも燃焼内室やガラスに煤が多くつく、などの症状が常時出るようになった場合、ダンパにて燃焼に必要な空気量を調節することが出来ます。

1．ダンパ調節レバーをスライドさせ、炎の大きさを調整してください。

【温風の調整】

1．温風吹出し口より風が出始めたら、温風ダイヤルにて、温風量を調整してください。

※徐々に温風に変わってゆきます。

※ストーブが過熱しすぎた場合は、温風ダイヤルの設定に関係なく強風になります。

【タイマの設定】

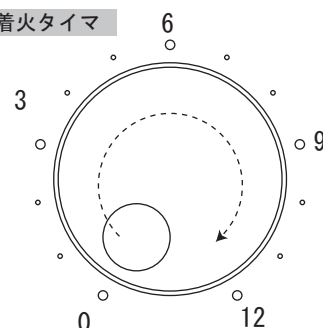
1．着火したい時間は何時間後ですか？その時間を着火タイマダイヤルで設定します。

※１時間後から１２時間後まで。ランプ１個は３時間を示します。

2．運転スイッチを押します。運転ランプ（緑）が点灯します。

※運転スイッチを押した後に、ダイヤルを操作されますと、タイマが正しく作動ません。

※設定を変更する場合は、着火タイマダイヤルを、カッチと音がするまで戻してから運転スイッチを押し、運転停止の状態にします。もう一度1．から設定してください。

※着火後、着火タイマダイヤルは、手動にて戻してください。（自動で0には戻りません）

【運転の停止】

1．運転スイッチを押します。運転ランプ（緑）が消灯します。

2．燃料の供給が止まります。

3．燃焼室の安全温度（50℃）以下になるまで温風吹き出しと排気は継続し、その後すべて停止します。

【運転中に燃料がなくなったら】

1．運転スイッチを押して運転停止の状態にします。

2．燃料を燃料タンクに入れます。

3．初めて使用するとき同様に、燃料供給強制スイッチをペンなどの先の細い物で押し続け、燃料を燃料タンクより燃焼ポットへ強制的に送り出します。（9P参照）

4．燃料が燃焼ポットへ落ち始めたら、運転スイッチを押して運転を再開します。

※燃料タンクが空になっても、まだ運転が続いている状態で燃料を補充しないでください。誤動作となる可能性があり危険です。

使い方

【毎日のお手入れ】

1．運転を停止し燃焼室内が完全に冷えてから、Ⓐ 燃焼ポットを取り出し、付着した灰をハケで取り除き、方向（手前・奥）を間違えないようにしっかりと所定の場所に収まるよう戻します。
2．燃焼室内はハケで、煤や灰を灰受皿に払い落とします。扉のガラス部 Ⓑ は固く絞った濡れ雑巾で拭きます。また、少量の灰をつけて拭きますと汚れがよく落ちます。
　※高温になっているガラスに水が付くと割れる可能性があります。

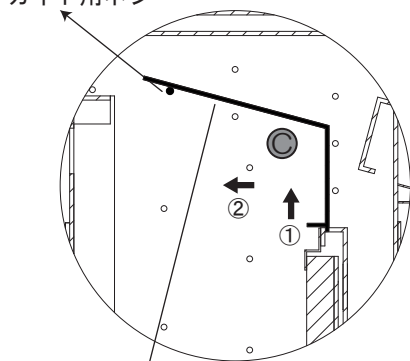
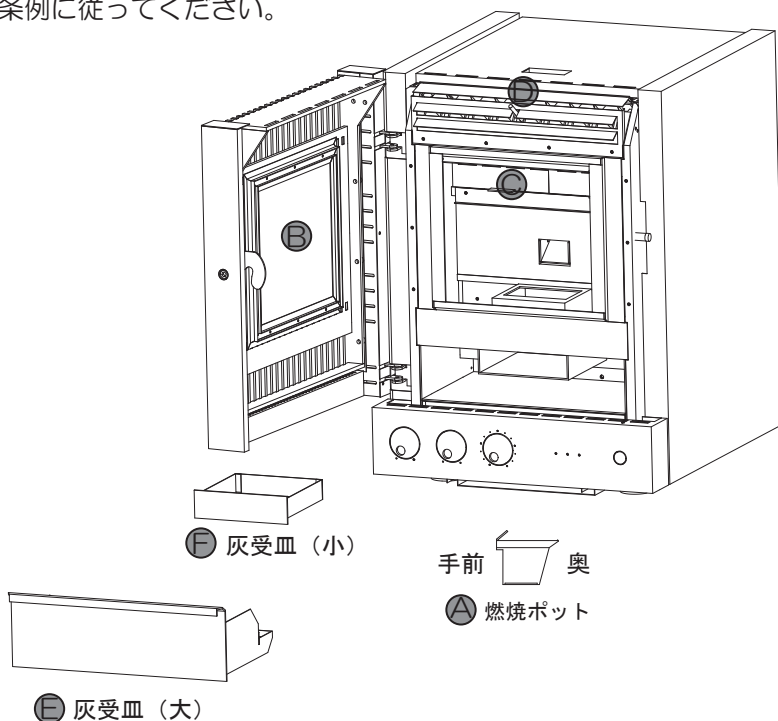
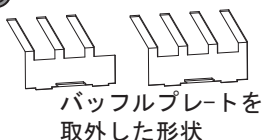
【燃焼室内の清掃・不定期】

1．燃焼室内、上部に Ⓒ バッフルプレート（左右2枚）がはめ込まれていますので、バッフルプレート下部の少し突き出している部分①を指で押し上げて外し、②手前の方向へ引き出します。
2．扉を閉め、Ⓓ パイプクリーナーを数回出し入れして、燃焼室内上部に溜まった煤を落とします。燃焼室内に落ちてきた灰を燃焼皿へと払い落とします。
3．清掃終了後は、パイプクリーナーを元の位置に戻し、バッフルプレートをはめ込んでください。

※バッフルプレートを取り付けずに使用されますと、燃焼性能が下がり故障の原因となります。
※使用頻度にもよりますが2週間に一度はパイプクリーナーによる、清掃をお勧めします。
※燃焼室裏側（通常は清掃不可能な場所）などにも煤は溜まります。使用頻度にもよりますが、目安として１～２年に一度、販売店によるメンテナンスをお勧めします。

【灰受皿】

1．扉を開け灰受皿(大) Ⓔ を手前に引き出します。次いで灰受皿(小) Ⓕ も引き出し、それぞれ灰を捨てます。

※燃料により灰の量は異なりますので、週に一度を目安に、灰のたまり具合を点検してください。
※灰の処理は、お住まいの市町村の条例に従ってください。

使い方

■給排気筒

1．給排気筒トップの煤の付着、異物の混入等、定期的に点検してください。
2．シーズンの終わりには、給排気筒の煤落しをすることをお勧めします。また、シーズン中でも煤の付着がひどいと思われるときは給排気筒の煤落しを行ってください。

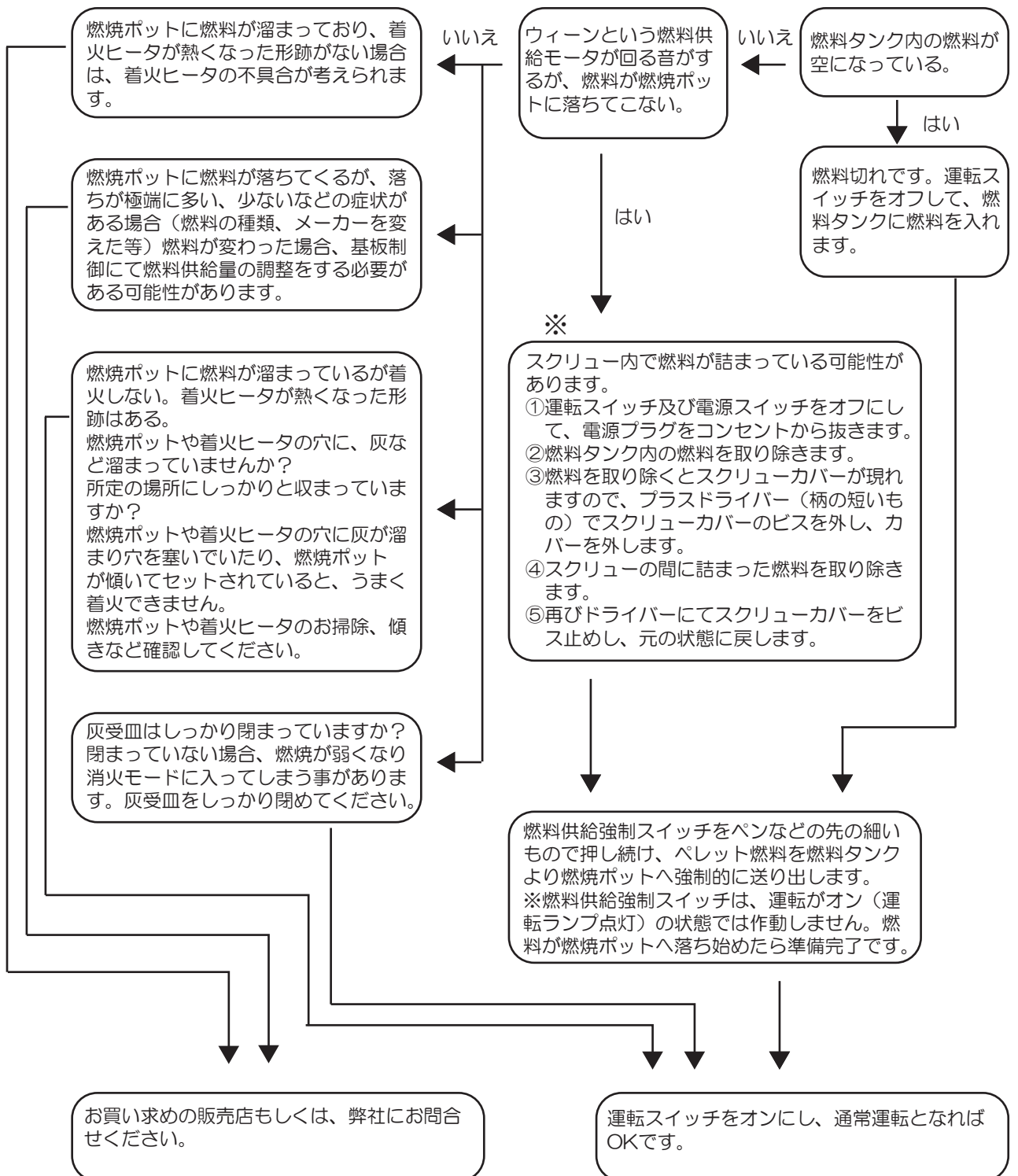
■不使用時の保管

1．ストーブ背部の電源スイッチをオフにして燃料タンク内の燃料を取り除く。
2．電源スイッチを再びオンし、燃料供給スイッチをペンなどの先の細いもので押し続け、スクリュー内に残った燃料を燃焼ポットへ送り出します。
3．電源スイッチをオフにし、電源プラグを抜きます。
4．ストーブ本体及び給排気筒の清掃をしてください。
5．給排気筒トップにキャップをかぶせる等、外部からの湿気がストーブに入らぬよう処置をしてください。燃焼室内が錆びる可能性があります。
6．ストーブ本体はできるだけ備え付けたまま保管してください。再度、備え付けを行うときは、必ず取付け業者に依頼してください。

■ストーブの移転等

1．ストーブの設置場所が引越しなどで変わる場合、電気の周波数をご確認ください。
2．周波数の切り替えが必要な場合は、ストーブの備え付けの依頼もあわせ、お買い求めの販売店にお問合せください。

トラブル対処フローチャート

【運転ランプ（緑）が点滅したとき】

トラブル対処フローチャート

【異常ランプ（負圧）赤　が点滅したとき】

トラブル対処フローチャート

【異常ランプ（感震・過熱）赤　が点滅したとき】

地震やストーブへの衝撃などがあった。

↓ いいえ

ストーブが異常高温になっている。

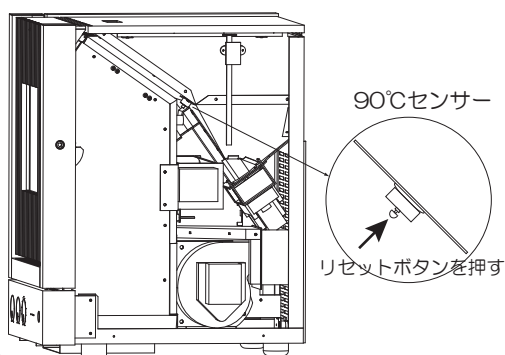
↓

過熱防止装置（90℃センサー）が働いた可能性があります。

①運転スイッチをオフにして、排気用送風機等、完全に停止した状態にします。
②ストーブ右側のパネルを外します。
③燃料タンクの裏側についている90℃センサーのリセットボタンを押します。
④外したストーブ右側のパネルを元に戻します。

↓ はい

感震装置が働いた可能性があります。
運転スイッチをオフして、排気用送風機など完全に停止した状態にします。

↓

運転スイッチをオンにし、通常運転となればOKです。

↓

処置をしても症状がなおらない場合は、お買い求めの販売店もしくは、弊社にお問合せください。

故障かな？と思ったら

トラブルが起きたときや疑問点があるときは、まずここを読んで対処してください。

症　状	原　因	処　置
火力ダイヤルにて火力を調節しても燃焼が変わらない	■着火後10分以内ではありませんか？ 運転スイッチを押してから、約10分間は自動運転のため火力ダイヤル及び、温風ダイヤルは機能しません。	温風吹出し口より風が出始めたら火力ダイヤル、温風ダイヤルにて調整が可能です。
	■温風吹出し口より送られる温風が、自動で大きくなっていませんか？ 一定の高温状態が続くと、過熱防止装置が働き、自動運転（温風ダイヤル最大、火力ダイヤル最小）となります。	燃焼室内が、一定の温度に下がると火力ダイヤル、温風ダイヤルにて操作が可能となります。
起動しない	■ストーブ背部の電源スイッチが、オフになっていませんか？ 主電源が入っていません。	コンセントを差込み、背部の電源スイッチをオンにし、運転スイッチをオンにします。
	■着火タイマダイヤルがオンになっていませんか？ タイマが入っていると、設定時間、経過後に着火します。	着火タイマをオフにして、再度運転ボタンをオンにします。
	■ストーブは十分冷えていますか？ 燃焼室内の温度が、一定温度に下がるまで運転できません。	少し時間を置いて、再度運転スイッチを押し起動させてください。
煙やにおいがする	■使用初期は塗料やほこりが焼けるためです。	しばらく窓を開けて換気をしながら燃焼してください。
燃料に点火しない	■燃焼ポットは正確に取り付けられていますか？ 燃焼ポットの向きが反対になっていたり、燃焼ポットがしっかりと収まっていないと着火できません。	もう一度燃焼ポットを燃焼容器に取り付け直します。
	■燃焼ポットの清掃はしてありますか？ 燃焼ポットに灰が付着し、空気穴や着火の穴を塞いでいると着火しません。	燃焼ポットに付着した灰等しっかりと取り除きます。
	■扉及び灰受皿はしっかりとしまっていますか？ 扉や灰受皿がしっかり閉まっていないと負圧が不安定になり着火しません。 特に灰受皿の奥に燃料や灰ががこぼれ落ち、しっかりと閉まらない原因となることがあります。	扉及び灰受皿をしっかりと閉めます。
	■燃料が水分を含んでいませんか？ 保管している間に湿気を持つことがあります。	湿気を持った燃料を取り除き、湿気のない燃料を使用してください。
	■給排気筒に詰まりなどありませんか？ 燃焼に必要な給気と排気が必要です。	給排気筒の詰まり、給排気筒トップの煤や灰を取り除いてください。 特に給排気筒トップには、煤や灰が付着しやすいです。

故障かな？と思ったら

症　状	原　因	処　置
燃料が燃焼室に落ちてこない	■燃料切れで自然消火した後ではないですか？ 燃料切れを起こした後は、スクリュー内に燃料が無い為め、燃料供給強制スイッチにて燃料を送り出さないと着火しません。	燃料供給強制スイッチにて燃料を強制的に送り出します。10P【運転中に燃料がなくなったら】を参照して、燃料の補給を行ってください。
	■燃料タンクに詰まりはありませんか？ モーターが動く音がするのに、燃料が落ちてこない場合は、スクリューの中で燃料が詰まっている可能性があります。	燃料タンクの中の燃料と、スクリュー内の燃料を取り除きます。13P ※ 参照
運転中に消火した	■燃料タンクが空になっていませんか？ 燃料切れです	10P【運転中に燃料がなくなったら】を参照して、燃料の補給を行ってください。
	■燃焼室や灰受皿に灰や煤が溜まりすぎていませんか？ 燃焼室及び灰受皿に灰が溜まりすぎると、燃焼に必要な空気が確保できません。	燃焼室及び灰受皿の清掃をしてください。
	■電源はきていますか？ 停電などで電源が途絶えた場合、燃焼炉内が一定温度以下になるまで再運転は出来ません。	燃焼室内の温度が下がったら、運転スイッチをオンにして運転を再開してください。 ※停電などで燃焼中に突然運転が中断された場合、排気用送風機が停止してしまうため、燃焼室内が煙で充満します。 温風吹出し口より煙が漏れることもあります。 その場合は電源プラグのみを、コンセントに挿してください。排気用送風機のみ起動し、燃焼室内の煙を排出します。
	■ストーブが異常高温になっていませんか？ 異常ランプ　感震・過熱（赤）が点滅した場合、過熱センサーが働いた可能性があります。	15Pを参照して処置をしてください。
	■地震や強い衝撃を受けませんでしたか？ 異常ランプ　感震・過熱（赤）が点滅した場合、感震装置が働いた可能性があります。	15Pを参照して処置をしてください。
すぐに火が消えない	■運転停止のため運転スイッチを押すと運転ランプは消灯し、燃料の供給は止まりますが、未燃焼の燃料は燃え尽きるまで火は消えません。 燃料が燃え尽き、燃焼室内の温度が一定温度になると対流用送風機、排気用送風機、全てが停止します。	しばらく待ってください。
運転ランプ・異常ランプが点滅している	■異常が考えられます。	トラブル対処フローチャート（13～15P）を参照して処置をしてください。

処置をしても症状が治らない場合はお買い求めの販売店にお問合せください。

仕　様

商品名	concord EMERSON
暖房方式	強制給排気、強制対流形
点火方式	イグナイター方式
使用燃料	木質ペレット（ホワイト）
発熱量（入力）最大	23,400KJ/h（5,500kcal/h）
発熱量（入力）最小	9,000KJ/h（2,100kcal/h）
熱効率	80％
暖房目安	40㎡
燃料タンク容量	10kg
外形寸法	W480×D535×H663
重　　量	80kg
電　　源	100V　50Hz・60Hz
電源ヒューズ	10A
定格消費電力　点火時	400W
定格消費電力　運転時	90W/60W
安全装置等	着火タイマ・感震装置・過熱防止装置

■発熱量は、木質ペレットの発熱量、18,000KJ/kgを基準に算出しています。
■製品改良のため、デザイン、仕様の一部を予告なく変更することがあります。
■この製品は、海外ではご使用になれません。